茨城県民間保育協議会青年部

礎（いしずえ）

第15号

2006.9

○ 青年部長あいさつ

青年部々長　大谷 隆（勝田あすなろ保育園副園長）

○ 全国青年保育者会議富山大会参加報告

平成18年7月5日～7日　①富山県富山市 富山国際会議場

②　〃　富山全日空ホテル

○ ばらき台幼稚園視察報告

平成18年6月8日　石岡市茨城3-4-13

○ 青年部組織図(平成18年度)

青年部長あいさつ

茨城県民間保育協議会青年部長　大谷 隆
(勝田あすなろ保育園副園長)

本年２年目を務めさせていただいております青年部長の大谷です。保育の世界はここ数年の聖域なき構造改革の波を受け、大揺れに揺れておりますが、我々青年部はこの大波に耐え、「選ばれ続ける保育園」の姿を探求しつつ、またメンバー各々が自園で中心的な役割を果たすためのスキルを高めてゆくことを主眼に活動しております。そのため昨年度は、例年の委員会活動の他に各委員会が主体的に全体会を企画・運営し、自主研究と活動の発信を行う機会を設けました。この過程でいろいろな経験と議論が生まれ、多くの若手メンバーにも活躍していただきました。このことは同時に、メンバー各々の問題の明確化につながったのではないかと思っております。

また、今年度は組織上に出向者支援会議を設け、日保協・私保連等保育関連団体への委員・役員の出向に対して支援体制を作り、それらの行う事業及び研修について「指定会議」や「推奨会議」などの位置付けを行って、参加の促進を図ることとしました。本年度は青年部より、藤崎副部長が日保協青年部の事務局長として出ており、他にも委員や役員として数名出ておりますので、出来る限り支援を行いながら、培われたこのチャンネルを生かすことが出来ればと思っております。

さらに今年度は、合計特殊出生率 1.25 という超少子化の状況下で求められる保育サービスの研究などを軸に、在宅者に対する新たなサービスの研究と、正常ではない在宅者（「保育引きこもり」）を想定し、その次に来るであろう社会現象に先んじた研究にも着手したいと思っております。親を含めたケアなどに、我々の業態としてどう関わることができるのか？家庭の教育力が低下している中で、親と子のしつけに対するプログラムが示

せないだろうか？など、認定子ども園がスタートし、クライアントから見れば、見かけ上幼稚園も保育園もひとつになって行く中で、これらケアノウハウの部分を以って、保育園独特の展開で差別化を図って行くこともこれからの研究テーマのひとつだと思っております。

最後に広報誌「礎」では、昨年度より年間統一テーマを設けて取材活動を行っておりまして、ちなみに昨年は「子育て支援センター事業」を取り上げましたが、本年度については、遠くて近い存在である「幼稚園」を１年間追いかける予定です。こちらもご期待いただければと思います。

なお、「礎」は青年部の活動を皆様にお伝えするものでありますので、これらをご参照いただき、皆様のお知り合いの若いメンバー（概ね５０歳まで）をご紹介いただければ幸いです。本年度もどうぞ宜しくお願いいたします。

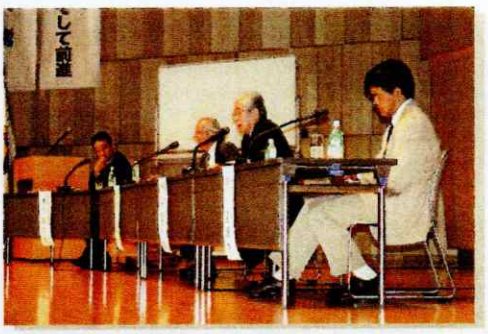
★青年部員を随時募集中、参加希望の方は事務局・白田(柳沢保育園 TEL029-263-5800)までご連絡ください。

全国青年保育者会議富山大会参加報告

青年部広報委員会記述

第28回全国青年保育者会議が、富山市の富山国際会議場において、7月5日より7日までの3日間の日程で行われました。わが茨城県民間保育協議会青年部からも部長をはじめ、総勢12名の青年部員が参加いたしました。

第1日目は開会式、厚生労働省雇用均等児童家庭局保育課長の尾﨑春樹氏による基調講演、日本保育協会常務理事の菅原善昭氏による本部報告で幕を開けました。夜は全国から集まった参加者が親睦を図るべく懇親会が行われ、目頃の保育や今後の保育情勢についての意見交換などをしながら、和やかに会食が進められました。第2日目の午前中は筑波学院大学学長の門脇厚司氏、京大学大学院教授の鯨岡峻氏、札幌市の月寒美晴幼稚園園長の東重満氏をパネラーに迎え「保育所の理念と実践と社会の融合、そして前進」と題されたパネルデイスカッションが行われました。門脇氏は社会学を、鯨岡氏は関係発達学をそれぞれ専門としており、人と人との関わり合いの重要性と子どもの育ちの関係や、社会性をきちんと身につけた子どもを育てるために、今後の保育所のあり方などについて専門的な立場から話されました。3氏の積極的な意見を伺うことにより、私達が日頃得ることの出来ない専門的な知識を得ることが出



来ました。
午後からは、５つの分科会に分かれて研修が行われました。この様子については、参加者の報告を以下に掲載いたします。(第１、４分科会は参加者なし)

☆第２分科会　「保育園における人と組織の活性化アラカト」
～人と組織を修繕しましょう～

講師　㈱ポラリス代表取締役社長　吉田　幸弘　氏

はじめに、私達の保育園は「社会的、公的存在か」をもう一度再確認する必要があり、①誰のための何のための仕事かを意識して仕事をしているか。②職員は社会とのさまざまなつながりを意識して仕事をしているか。③ファン(賛同者・協力者)を大切にした仕事をしているか。その結果により利用者や地域社会からその存在意義を判断されるという話を伺いました。

次に、優れたリーダーは自ら「明確な未来」をイメージし、語り、考え、反芻し、計画し、練り上げ周りの人に夢を与えることができ、明確な未来に向けて職員を一致団結させることができる人物であるべきだと話されました。それぞれ職員の仕事上の満足感を高めるためには、成し遂げた成果、達成を認め、徐々に大きな責任のある仕事を与えることでより意欲を高めることができるとも話されました。また、組織には、その組織を構成するすべての人間に共通の目的があり、その目的に向ってその能力を結集していくためには、決まり事を守り仲間と意志疎通をはかることがすべての行動の基本であると話されました。この分科会に参加して私たち経営者はもっと危機感を持って経営・組織作りに取り組んでいかなければならないと感じました。　(上小瀬保育園副園長　金澤信仁)

☆第３分科会　「子どもの遊び再考」～遊びは最高！遊びで育む心と体～

講師　(株)ネイビーチーフプランナー　横山諭氏

(有)百町森おもちゃデザイナー　相沢康夫氏

この分科会では２名の講師を迎えて遊びの重要性を改めて考える機会を与えてくれました。

子どもは幼児期に遊びを通してたくさんのことを学びます。私たちは子どもたちに対して、本当に必要な遊びを適切に提供できているでしょうか？この分科会で外遊び・良質なおもちゃについて有意義な講演を聴く事ができました。

まず、遊び環境アドバイザーである横山　諭氏の講演では、「育ち」の環境を構成する要素は、「人的環境」「物的環境」「時間的環境」の３つだと言います。また「外遊び」は２つのカテゴリーに分かれ、１つは「研究遊び」で、「自然」と触れ合ってその法則を知る遊びです。もう１つは運動遊びとも呼ばれるもので、「カラダ遊び」であり、走ったり登ったり、飛んだり跳ねたり「地球に対した自分のカラダをどう動かせるか」を追求する遊びです。

次におもちゃデザイナーの相沢　康夫氏の講演では、良質のおもちゃを整った環境の中で子どもたちに提供し、おもちゃの形や大きさ、相似しているもの等を手で触れることで感性を磨くということの重要性を話されました。

両者に共通していることは「大人も楽しめる遊びでないと子ども達は遊び込めない」と言うことであり、日頃私たちは子どもに対し本当に必要な遊びを適切に提供できていたのか反省させられました。

(納場保育園事務員　萱場祐友)

第３分科会では、おもちゃデザイナーの相沢康夫氏と、遊具の安全性や公園、園庭設計で著名なプランナー横山諭氏をお迎えし、子どもの遊びや適切な遊びの環境などについてのご講演を聞かせていただきました。

早期教育が行われている園では、遊びと言っても学習目的であったり、保育士に“させられる”遊びの場合が多いわけですが、子どもの遊びにと

って重要なことは、自らが好み興味を持って取り組むこと、つまり主体性が存在しているかどうかということでした。“やりたい”という意欲を持っている脳はよく成長するが、人から教わる興味の湧かないことでは脳はよく発育しないということでした。

外遊びを大きく分類すると研究遊び(自然と触れ合い体験する)とカラダ遊び(走る・登る等の運動遊び)に分けられますが、以前は自然の中で体を動かし遊ぶことが多かったのに、現在は遊具を使った遊びが増えたことでカラダ遊びが不足し、事故の増加や肥満児の増加が見られるとのことでした。

後半、相沢氏が考案したおもちゃによる遊び方やパフォーマンスの実演を見せていただきましたが、一つの遊びに真剣に取り組める環境こそが、子どもにとって良い環境であるということを改めて感じました。

(飯沼保育園保育士　田山美樹)

☆第５分科会　「千葉県支部研究発表＆討議」
講師　千葉県近未来保育研究所所長　松山益代氏
〃　主任研究員　小林照男氏

この分科会では①保護者からの苦情の分析とその対応から学ぶ②保育所内における会議による「職員の活性化」を求めてという２つの研究発表が行われました。千葉県内保育所の後継者で構成された「千葉近未来保育研究所」は千葉県内公私立保育園を対象に「苦情アンケート」（２０３件回収）を実施し、そのすべての苦情を分類・分析したところ、苦情の性質を大きく３つに要素に分け、さらにそれらを①予防できる苦情、②こじらせないで済む苦情、③無くせる苦情に分類することでそれぞれ情報開示や職員間の情報伝達、職員会議の見直しといった方法を通して「苦情を宝」に変えていくことができるという発表がなされました。苦情の多くがコミュニケーションに起因するものであり、そこを改善するひとつの方法として施設内での会議を見直し、職員の資質を向上するというのが後半のテーマでした。

ここでは「ファシリテーション」という会議を円滑・促進するための技法を用いてグループワークを行い、各グループごとに共通議題についてどんな結論が抽出できるのかを検証しました。会議の参加者が目標・目的に対して共通の認識があるかないかによって議事の進行や得られる結論が異なることを改めて実感するとともに職員の更なる活性化に向けて気持ちを新たにしました。　　（太陽保育園副園長　森川道成）

大会３日目の最終日、作家・歌人である辺見じゅん氏による記念講演がありました。彼女の名前を聞いて思い浮かぶ名作といえば、「男たちの大和」ではないでしょうか。
辺見氏は「子育ての今と昔」をテーマに、彼女自身の幼少期のこと、親となって思ったこと、祖母となり孫を見て感じることなど、時代の流れと共に変化してきた子育て観・家族像などのお話をしてくださいました。
その中で辺見氏は「こどもを育てるのは親ばかりではなく、周りにいる人たちが育てていくもの。」　「こどもは天・神様からの授かりもの。自分のこどもであっても、自分の物ではない。」との言葉がとても印象強く心に残りました。
最後に、我々に「夢ありて楽し」というメッセージを残し会場を後にされましたが、「いくつになっても夢を持つことはとてもすばらしいこと。夢を持っていれば、辛くても楽しく前向きに頑張れる。」と話された辺見氏の笑顔がとても綺麗でした。
保育者のひとりである私がこどもたちにどんな夢をもたせてあげられるか。まず私自身いつも夢を持ち続け努力していくことが大切なのだと改めて思いました。
こうして、３日間に及ぶ全国青年保育者会議の全行程が終了しました。一年に一度の機会ではありますが、全国の青年保育者が一同に会し保育に対する思いを共有することに、この大会の意義があるのだと強く感じました。来年度は茨城県のお隣、福島県の会津若松市で開催されます。参加者全員で次回大会での再会を約束し、富山の地を後にしました。

ばらき台幼稚園訪問記

広報委員会では、昨年度は「子育て支援センター」を年間テーマとして取り上げ、杉山保育所と泉ヶ丘保育園を訪問させていただきました。今年度は「認定子ども園」を念頭において幼稚園を訪問させていただき、保育園との違いや見習うべきところを見学せていただくという趣旨で進めてまいります。

乞う、ご期待。

平成18年6月8日に広報委員6名で石岡市の学校法人曹洞学園「ばらき台幼稚園」に伺い視察研修を行ってまいりました。まず、理事長の永田弘見先生に、施設の概要などを説明していただきました。永田先生は、もともと昭和44年から市内で認可保育園(ひかり保育園)を運営してしていましたが、地域の要望(ばらき台団地造成など)があり、昭和53年に学校法人の認可をとり、ばらき台幼稚園として開所しました。現在は2才児も含め(特区認定)240名の園児を預り、当日もたくさんの子ども達が園庭で元気に遊んでいました。

私達からの「幼稚園と保育園の違いは？」という問いに永田先生は、「保育園は生活の場」あり「幼稚園は体験保育の場」であるが、基本的には同じだと考えていると答えてくださいました。基本的な開所時間は午前7時30分から午後2時30分までですが、希望者には午後4時までは無料で、その後午後7時までは有料で「預り保育」を行っているということでした。また、幼稚園では珍しい完全給食も実施しており運営内容は保育園と大きな違いがないようでした。

お話を伺った後、保育室の見学をさせていただきましたが、3歳児はミッ

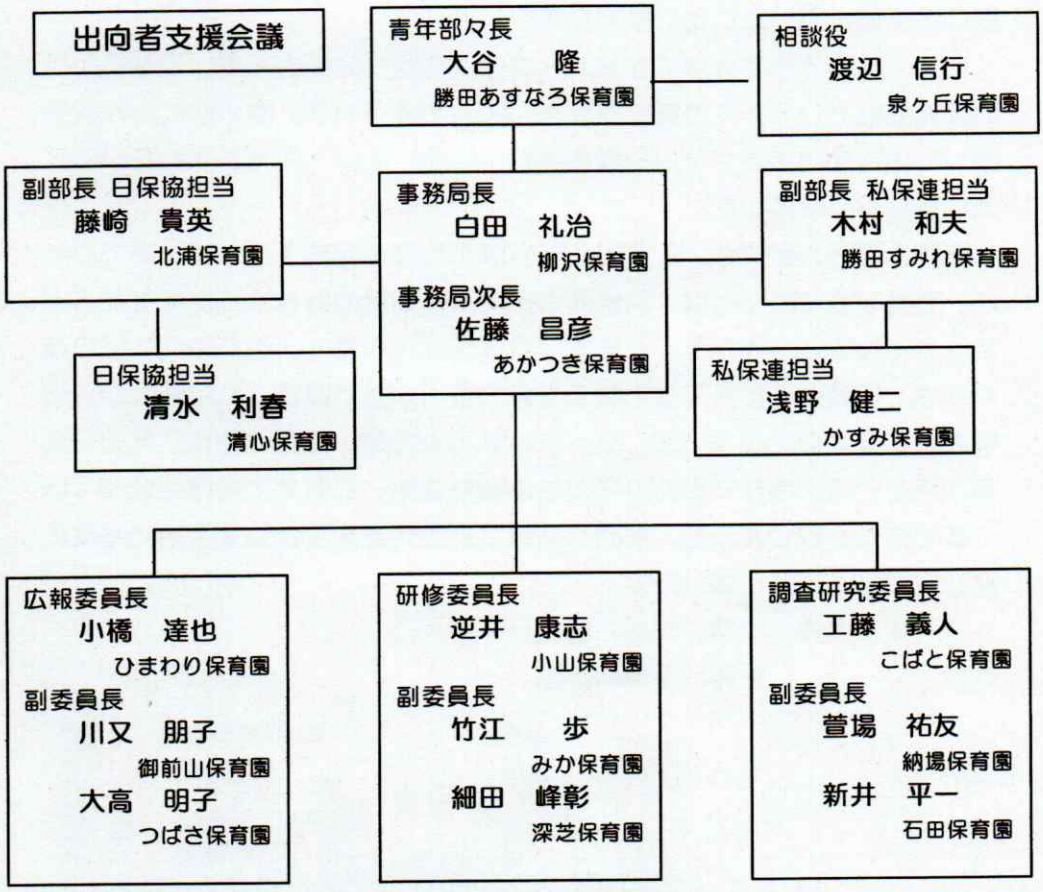
キー・ミニーのぬり絵、４歳児は遠足の絵、５歳児は絵日記を書いていました。表現活動は年齢に合わせて無理なくステップアップしているとのことです。１クラスは 35 人ですが、歩き回っている子も無く、集中して活動に取り組んでいたことには大変感心しました。

また、ばらき台幼稚園はサッカークラブ活動が大変盛んで、保育終了後の課外活動として多くの園児が参加しているそうです。園の隣に一年間を通して枯れない芝のサッカー場があり、活動にたいへん力を入れていることが伝わってきました。

今回の視察の目的は、保育園と幼稚園の相違点を考えるという事でしたが、私達が感じたことは、幼稚園も保育園も幼児の育ちや教育を考えると言う点では同じだと言うことです。保育園に比べて一人当りの収入は少なくても、保護者にとって魅力ある保育内容・方針で運営すれば園児が集まり繁栄するものだと思いました。これからの幼保一元化の時代に私達がなすべきことは、今までとおり子どもの利益を第一に考えた保育を行っていく事であると感じました。今回の研修で得た知識を生かして今後の保育に役立てていきたいと思います。

参加委員：小橋、大高、藤枝、
佐藤、金澤、戸田

平成18年度青年部組織図



編集後記

９月も半ばを過ぎだいぶ涼しくなってきました。皆さんの園では「運動会」は終わりましたか？　さて、日頃から保育の仕事をしていて感じることは親や家庭に「子育て力」が弱まっていることです。保育園が子育て力の弱い親の肩代わりをしている状況で、保育予算を削減されることで一番被害を被るのは当の子ども達だと思います。５年間の小泉内閣の残したものは行政改革のかけ声の下に「運営費の一般財源化」や「認定子ども園」構想など保育業界にとって厳しいものでした。小泉首相の後継は阿倍晋三官房長官で決定しましたが、新首相には真に子どもの利益に叶う政策を期待したいものです。　　T&K

オーモリ弁当®

〒310-8586　水戸市千波町 1918
茨城県民間保育協議会青年部広報委員会
平成 18 年 9 月発行